

## 4 わたしたちにできることってなんだろう

(5) 地球温暖化による影響考え、行動するために  
ア アカウミガメをわたしたちが守る

### ○地球温暖化による生物多様性への影響

地球温暖化に伴う気候変動によって、植生や野生生物の分布の変化等が既に確認されています。将来もそのような影響がさらに進行することが予測されており、人間が生態系から得ている様々な恵み(生態系サービス)への影響も懸念されています。

IPCCの第4次評価報告書では、世界平均気温の上昇が1.5~2.5℃を超えた場合、動植物種の約20~30%で絶滅リスクが増加する可能性が高いこと、約1~3℃の海面水温の上昇は、サンゴの白化現象の頻発と広範な死滅をもたらすことなどが予測されています。

日本においても、気候変動の影響と見られる例が数多く報告されており、生物や生態系の分布が北方あるいは高標高域に変化する現象(南限近くのブナ林の衰退、高山植物群落の衰退、冷水魚の分布の縮小、チョウの分布の北上など)、生物の活動の変化(サクラの開花、紅葉、鳥の産卵時期などの変化)、サンゴの白化などが、最近数十年間で顕著になっています。

### ●性別が生まれた場所の気温によって決まるもの

爬虫類のうち、ワニ、ほとんどの種のカメ、一部のトカゲ類は地中に産みつけられた卵の胚発生時の温度によって性別が決定します。

アカウミガメはレッドデータブック(絶滅のおそれのある野生生物の生息状況等をとりまとめた資料集)で絶滅危惧IB類に分類されており、絶滅のおそれがあると言われていています。福岡県内では福岡市東区、福津市、宗像市、岡垣町に分布し、数は少ないが、福津市から岡垣町にかけて、ほぼ毎年産卵しています。県内だけの上陸数では、顕著な減少はみられないものの、長期・広域的な調査によると生息数は減少傾向にあります。

### ●藻場の衰退、消失

藻場は多くの水生生物の生活を支え、産卵や幼稚仔魚に成育の場を提供する以外にも、水中の有機物を分解し、栄養塩類や炭酸ガスを吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化に大きな役割を果たしています。

アラメ、クロメの生育上限水温は、それぞれ29℃、28℃であるため、2013年に、高水温の影響で福岡県を含む九州北部~山口県に至る約200kmの海岸線沿いで、アラメ・カジメ場が茎の末端から流出して大量に打上げられ、おそらく日本初の大規模かつ急激な藻場の衰退減少が発生しました。

### ●生物季節観測

気象庁では、全国の気象官署で統一した基準によりうめ・さくらの開花した日、かえで・いちょうが紅(黄)葉した日などの植物季節観測(多くは観察する対象の木(標準木)を定めて実施)や、うぐいす・あぶらぜみの鳴き声を初めて聞いた日、つばめ・はたるを初めて見た日などの動物季節観測を行っています。

観測された結果は、季節の遅れ進みや、気候の違いなど総合的な気象状況の推移を把握するのに用いられる他、新聞やテレビなどにより生活情報のひとつとして利用

## 4 わたしたちにできることってなんだろう

(5) 地球温暖化による影響を考え、行動するために

ア アカウミガメをわたしたちが守る

地球温暖化が進み、北極や南極の水や雪が減ることで、ホッキョクグマなどの生きもののおすみかが減っています。また、海水の温度が高くなることで、サンゴが白化し、死んでしまうなど影響が出ています。

福岡県内でも上陸が確認されているアカウミガメは、絶滅の心配されています。アカウミガメは生まれた場所の気温により性別が決まり、気温が29℃をこえるとメスしか生まれないといわれています。

地球温暖化が進み、29℃以下にならなくなるとオスが生まれず、絶滅してしまうかもしれません。

省エネ・節電などできることから始めて、地球温暖化が進まないようすることで、アカウミガメを守って行く必要があります。

調べてみよう

アカウミガメの他にも、地球温暖化によって、影響を受けている生きものがあります。影響を受けている生きものについて、調べてみましょう。




23

されています。

### ◆気象庁 HP【生物季節観測に関する総合サイト】の URL

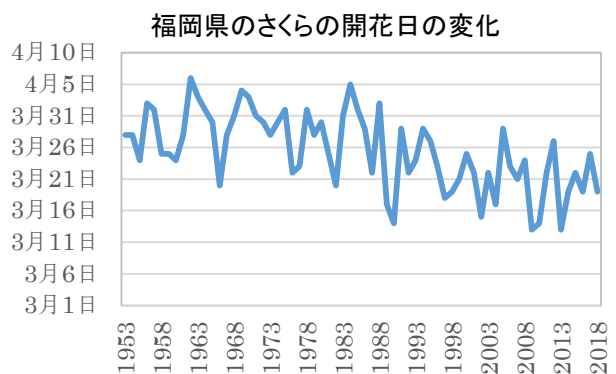
<https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/>

### ◆統一基準の観測方法(例)

- ・さくらの開花日: 標本木で5~6輪以上の花が開いた状態となった最初の日。
- ・さくらの満開日: 標本木で約80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日。

### ◆さくらの開花日

福岡県のさくらの開花日は50年で9.2日早くなっています。



【出典】気象庁ホームページより作成

さくらは前年の夏に花のもととなる花芽を形成し、一旦休眠にはいります。花芽は冬の低温に一定期間さらされると休眠を終え(休眠打破)から覚め、春先の気温の上昇とともに成長し開花します。

近年、さくらの開花日は早くなっていますが、地球温暖化の影響により冬の低温を得られないと休眠打破に至る時間が長くなり、開花が遅れたり、さらには開花しない・満開にならない年が現れる可能性もあります。